

ファッション写真家
ピーター・
リンドバーグさん

追悼

まま 「美の呪い」解く

世界的なファッション写真

家、ピーター・リンドバーグさんが3日、74歳で亡くなった。1990年代に撮影したスーパーモデルのポートレートなど、女性の内側からにじみ出る美しさを表したモノクロ写真で知られた。

(生活部 谷本陽子)

突然の訃報だった。先月発売された英国版「ヴォーグ」



コム・デ・ギャルソンが1982年に発表したコレクション。デザイナーの川久保玲さんが撮影を依頼した。(C)Peter Lindbergh

モード

UPDATE

でも表紙の写真を撮影。同号でゲスト編集者を務めた英国のメーガン妃や親交のあったモデルらは、SNSで相次いでメッセージを発信し、「モノクロの巨匠」を悼んだ。リンドバーグさんは1944年、ドイツ占領下のポーランド生まれ。70年代からパリを拠点に雑誌や服飾ブランドの広告で活躍。映画の一場面のような物語性のある写真



ヨウジヤマモトの2002年春夏コレクションのカタログ。山本耀司さんとは互いに尊敬し合う関係だったという

が、見る人の感情に訴えた。80年代には、パリに進出したコム・デ・ギャルソンのコレクションやカタログを撮影。穴のあいたセーターなど、「黒の衝撃」と評された斬新な服を重厚感たっぷりに力強いイメージで撮り下ろし、デザイナーの世界観を表現した。

あえてモノクロで

90年代にはナオミ・キャンベルさん、シンディ・クロフォードさんらスーパーモデルの生き生きとした姿を捉えた。カラー全盛の時代にあえてモノクロで撮影。時にノーメイクで、画像加工を施さず、被写体のあるがままを写し出した。出版した写真集などでは、「若さ、完璧さを備えていることこそが美しいという呪いから、女性を解放することが写真家の義務」と語っていた。

服飾史家の中野香織さんは「当たり前のように加工、修整された『美女』の写真がSNSなどであふれている今、彼が写した女性たちは、勇気を備えた本物の美しさの体現者として心に迫る」という。40年来の付き合いがあった

フランス版「マリ・クレール」元副編集長の山崎真子さんは